

平成25年6月21日

保護者様

埼玉県立熊谷高等学校長 赤松峰親

スーパーサイエンス講演会について（お知らせ）

麦秋の候、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、文部科学省より指定を受けましたスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業も3年目となり、生徒達への刺激として様々な事業を展開しております。今回、全校生徒対象のスーパーサイエンス講演会として、独立行政法人 物質・材料研究機構 中核機能部門長 田沼繁夫先生をお迎えし、下記の通り開催することとなりました。せっかくの機会でもございますので、限られた人数ではありますが、保護者の皆様にご案内申し上げます。

なお、希望される方は、下の用紙を6月28日（金）までに、担任までご提出ください。

記

- 1 日 時 平成25年7月4日（木） 午後2時から4時まで
- 2 会 場 熊谷会館
(熊谷市末広3-9-2、048-523-2535)
- 3 演題、講師 「表面の分析と私」
独立行政法人 物質・材料研究機構 中核機能部門長 田沼繁夫氏

<講師プロフィール>

学歴：熊谷高校 卒業（1972）

東京理科大学理学部化学科 卒業（1977）

筑波大学大学院博士課程（化学専攻）終了 理学博士（1982）

専門：表面電子分光および表面化学分析

特に、表面近傍における電子の非弾性散乱

職歴：1982年に筑波大学院博士課程終了後、日本鉱業中央研究所（現 JX ホールディング）に勤務。その後、1985年から米国商務省標準技術研究所(NIST)に2年間、客員研究員として滞在。ここで、表面分析の研究に従事し、主に固体中の電子の運動に関する研究を実施した。NISTにおける研究で、固体中の電子の移動距離に関する理論式（Tanuma-Powell-Penn）の式；TPP式と呼ばれている）を見出し、一躍著名になった。この式は、改良が加えられ、現在はTPP-M2式が一般に使われている。その後、2001年に独立行政法人 物質・材料研究機構(NIMS)の設立と同時に、同機構に移籍し、表面分析に関連する研究グループおよびそのサービス部門として材料分析ステーションを立ち上げた。現在では中核機能部門長として七つのステーション、四つのプラットフォームを統括し、広く材料開発・評価・標準化の基盤構築とその展開に関する業務を行っている。同時に、研究面では極限計測ユニット表面分析グループにおいてグループリーダーとして表面電子輸送シミュレータの開発を指揮している。

担当 SSH事務局 稲村 靖

TEL048-521-0050

..... キリトリ線

申 込 書

スーパーサイエンス講演会（7/4）に申し込みます。

平成25年 月 日

_____(氏名) _____ [生徒 年 組 番 (氏名)] _____